

東京都すくわくプログラムその1

テーマ

表現の世界

テーマ設定理由

・前年度から子ども達が興味、関心を持った物や体験を絵に描いたり製作をしたりすることが好きで遊びややりとりに広がっていた。今年度もより一層、製作、描画を通して遊びが広がっている。創造していくなかで一人ひとりまたは友だちと一緒に表現を深めていけるのではないかと思いテーマに設定した。

活動スケジュール

夏・夏のお楽しみの一環として「おばけやしき」をすることになった。子ども達が大好きな「おばけ」「妖怪」前年度お化け屋敷を作った経験、好きな妖怪の絵本などをもとに「おばけは、本当にいるか分からない」「いたらどんな感じ?」「どんなおばけがいるの?」「こんな妖怪知ってるよ」「河童やゾンビになってみたいな」と友達と一緒に想像を楽しみながら製作に取り掛かっている。お化け屋敷は「どうやったら来る人が怖いかな?」「どのように空間を作っていくか」など子どもたちからの出た意見やイメージを具体化していく。

探究活動の実践

サークルタイム1回目(7月25日)

・青いラップ青い光を作りたい、おばけのシートを作りたい、ドアを作る、部屋を迷路みたいにする、骨を作る、怖くするために連れ去るおばけが欲しい、河童の川を作る、いったんもめんを作ってつるすなど具体的な案が出た。

子ども達から出た意見を大きな紙に書いて掲示し、「どうやって作るか」「出た中で何が作りたいか」見ながら進められるようにした。出た意見以外にもアイデアがあった場合は追加できるようにした。



製作(7月26日~)

お化け屋敷開催前日(8月6日)のリハーサル

月組さんだけで会場づくりを始める前にどんな部屋だったら怖くなるかをみんなで考えた。「壁や周りに目玉をが沢山あったら怖いと思う」、「河童は川から出てきたら怖くなると思う」など更にイメージが広がり早速、作るようになった。

周りを装飾するグループとおばけのおばけや敷グループに分かれて設定を始める。

屋敷の制作では、段ボールが足りず迷路づくりに難航したが、折り紙でおばけを作って貼ったり、吊るすおばけを制作など工夫した。

お化け屋敷の出口と入口は保育者がここにしたらとアドバイスし、屋敷制作グループは入り口から段ボールで迷路を作る、作ったおばけを貼それぞれのおばけブースの設定はグループごとに行った。部屋は真っ暗にし、ホーンテッドマンションの音楽をかけて盛り上げた。屋敷制作グループはお客さんになり、実際にお化け屋敷に入って楽しんだ。



リハーサルを終えて

- ・楽しかったから、ごほうびにジュースやプレゼントがあった方がいい
- ・カップやゾンビ、雪おんなをずっとやり続けるのは大変だ
- ・小さい子たちが怖がったり泣いたりしないかな?

といった意見が出た。

・来てくれた人にもごほうびのお土産があった方がもっと喜ぶね⇒折り紙でおばけを作ってプレゼントする

・おばけの役は2交代にして、みんながおばけをやればいい

・花組さんやつぼみ組さんは怖がるから少し明るくして、「みんなが知ってる「おばけなんかいないさ」の音楽をかけたら怖くないんじゃない?」また、「2回目の雪組さんは怖いお化け屋敷でも大丈夫だと思う」など子ども達の意見を元に2部制にした。

お化け屋敷開催(8月7日)

リハーサルで作ったお化け屋敷につぼみ組、花組、雪組さんをご招待。2部制にして、1部では部屋を少し明るくし、「おばけなんてないさ」の曲をかける。月組さんが一緒に案内係としてついてあげる。2部では、お化け役を交代、部屋は暗くして、1人で入れる子どもは1人で、付き添いが必要な時は一緒に入ることにする。音楽はホーンテッドマンション風に。お化け屋敷から出てきた子どもたちに手作りのプレゼントを渡し、喜んでもらえた。

終了後には、子どもたちで振り返ってみた。



振り返りの後は、お片付けもがんばりました!!

最後にみんなでお楽しみタイム。達成感と満足感を感じていました。

7月からの新入園児もこの取り組みをきっかけにして、クラスでの一体感も生まれてきました!!

